

Ⅳ 農 作 物 の 部

解 説

この部には、「作物統計調査(「作付面積調査」、「作況調査」、「被害調査」)」及び「特定作物統計調査(「作付面積調査」、「収穫量調査」)」による農作物の作付(栽培)面積、収穫量及び出荷量等に関する統計を掲載した。

なお、調査期日、全国調査の実施周期、直近の全国調査実施年は以下のとおりである。

(調査期日)

調査対象作物	作付面積調査	作況調査、 収穫量調査
水稲、茶	7月15日現在	収穫期
豆類	9月1日現在	
陸稲、麦類、そば、なたね、 かんしょ、飼料作物、 えん麦(緑肥用)※	収穫期	収穫・出荷終了時
野菜		
果樹	7月15日現在	
花き	当該年産の収穫・出荷の終了した翌年2月末	

※えん麦(緑肥用)は作付面積調査のみ。

1 調査の概要

(1) 作付面積調査、作況調査、収穫量調査及び被害調査

ア 調査の目的

これらの調査は、作物の生産に関する実態を明らかにし、総合的な食料自給力の維持向上等を図るための各種施策を推進するための農業行政の基礎資料を整備することを目的に実施した。

イ 調査の方法、時期及び範囲

(ア) 作付面積調査

水稲については、標本単位区に対する実測調査、巡回・見積り及び関係機関からの情報収集等による。

水稲以外の作物については、関係団体に対する往復郵送調査を行い、巡回・見積り、関係機関からの情報・資料収集により補完している。

調査時期は、各調査対象作物の調査期日を基準に、各作物の作付状況を考慮して行った。

調査範囲は、全国調査年以外の年は主産県で調査を行っている。

なお、調査期日、全国調査の実施周期、直近の全国調査実施年は、以下のとおりである。

(全国調査の実施周期と直近の全国調査実施年)

調査対象作物名	作付面積調査	作況調査、 収穫量調査
水稲、麦類、大豆、そば、 なたね	毎年	
豆類(大豆を除く)	3年ごと(※平成27年)	6年ごと(※平成27年)
陸稲、かんしょ、飼料作物	3年ごと(※平成29年)	6年ごと(※平成29年)
野菜、花き	3年ごと(※平成28年)	6年ごと(※平成28年)
果樹、茶	6年ごと(※平成28年)	6年ごと(※平成26年)

※印は直近の全国調査実施年。

(イ) 作況調査及び収穫量調査

水稲については、作況標本筆及び作況基準筆に対する実測調査、巡回・見積り及び情報収集による。

水稲以外の作物については、関係団体及び標本経営体に対する郵送調査、巡回・見積り等による。

調査範囲は、全国調査年以外の年は主産県で調査を行っている。

(ウ) 被害調査

水稲の被害調査は、作況標本実測筆調査及び巡回・見積り等を基に被害面積、被害量を推定した。

調査期日は収穫期である。

(2) 農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率

ア 調査の目的

この調査は、農業における耕地の利用実態を明らかにし、食料・農業・農村基本計画における延べ作付面積、耕地利用率の策定及び達成状況検証のための資料とすることを目的に実施した。

イ 調査の方法

作物区分別に統計調査等の品目別面積を集計した後、作物区分ごとの面積を集計して作成した。

なお、各作物区分と当該作物区分に属す品目等は以下のとおりである。

(農作物作付(栽培)延べ面積における作物区分及び当該作物区分に属する品目等)

作物区分	品目等
水稻(子実用)	水稻
麦類(子実用)	小麦、二条大麦、六条大麦、はだか麦
大豆(乾燥子実)	大豆
そば(乾燥子実)	そば
なたね(子実用)	なたね
その他作物	陸稲、かんしょ、小豆、いんげん、らっかせい、果樹、茶、野菜、てんさい、さとうきび、い、こんにゃくいも、花き、飼料作物、緑肥作物、花木等

全国調査作物及び主産県調査作物については、調査で把握した結果を採用し、主産県以外の各都道府県(以下「非主産県」という。)の作付(栽培)面積については、以下の方法により算出した。

(ア) 果樹、茶、野菜、花き、いんげん、らっかせい及びこんにゃくいもについては、平成29年産は主産県調査であることから、全国調査を行った平成28年産(こんにゃくいもについては平成27年産)の調査結果に基づき、次により推計した。

非主産県の作付(栽培)面積＝平成28年(産)の全国調査年における非主産県の作付(栽培)面積×作付(栽培)面積の変動率(x)

x: 平成29年(産)の主産県の作付(栽培)面積の合計値÷平成28年(産)の全国調査年における主産県の作付(栽培)面積の合計値

(イ) 小豆については、平成29年産は主産県調査であることから、全国調査を行った平成28年産の調査結果に基づき、次により推計した。

小豆の非主産県の作付面積＝平成28年産の全国調査年における非主産県の作付面積×作付面積の変動率(x)

作付面積の変動率(x)については、全国調査年における非主産県の合計値を用いて1年当たりの変動率(a)を算出し、それに平成28年産全国調査年からの経過年数を乗じることにより算出した。

a: ((平成28年産の全国調査年における非主産県の作付面積の合計値÷平成25年産の全国調査年における非主産県の作付面積の合計値)－1)÷3(全国調査の周期)

x: a×経過年数(平成29年産の場合は「1」)+1

(ウ) 緑肥作物の作付面積については、次により推計した。

緑肥作物の作付面積＝平成28年産の各都道府県における緑肥作物作付面積×えん麦(緑肥用)作付面積の変動率(x)

x: 平成29年産のえん麦(緑肥用)作付面積の全国値÷平成28年産のえん麦(緑肥用)作付面積の全国値

(エ) 上記以外の作物(主にその他作物)の作付(栽培)面積については、次により推計した。

その他作物の作付(栽培)面積＝平成28年(産)の各都道府県におけるその他作物の作付(栽培)面積×その他作物の作付(栽培)面積の変動率(x)

作付面積の変動率(x)については、各都道府県におけるその他作物の作付(栽培)面積を用いて1年当たりの変動率(a)を算出し、それに平成28年(産)からの経過年数を乗じることにより算出した。

a: ((平成28年(産)の各都道府県におけるその他作物作付(栽培)面積÷平成25年(産)の各都道府県におけるその他作物作付(栽培)面積)－1)÷3

x: a×平成28年(産)からの経過年数(平成29年(産)の場合は「1」)+1

2 利用上の注意

(1) この部に掲載した作付(栽培)面積、収穫量及び出荷量は、次の基準により四捨五入した。したがって各数値の積上げ値は、合計又は県計と一致しない場合がある。

(2) この部に掲載した統計は、生産者の所在地に関係なく、耕地の所在する市町村に統計値を計上した。(属地主義)

原 数	7桁以上 (100万)	6桁 (10万)	5桁 (万)	4桁 (1,000)	3桁以下 (100)
四捨五入する桁 (下から)	3桁	2桁		1桁	四捨五入 しない
例					
四捨五入する前 (原数)	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
四捨五入した数値 (統計数値)	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

この部についての照会先

統計部 生産流通消費統計課

電話(076)263-2161 内線 3641

直通(076)232-4895